

■ 概況

9/17~9/30のNYMEX・WTI先物市場は、39.29~41.11ドルの範囲で推移した。

10月1日は、世界的な新型コロナの感染再拡大の懸念に加え、9月のOPEC産油量が前月比16万b/d増加したとの報道があり、需給ギャップの拡大懸念から、大幅に反落した。11月限終値は前日比1.50ドル安の38.72ドル。

週末2日は、トランプ大統領の新型コロナウィルス感染の報道を受けて、大幅続落した。また、8月の米国雇用統計も回復が予想を下回った。なお、米国稼働石油掘削機は前週末比6基増の189基で2週連続の増加。11月限の終値は前日比1.67ドル安の37.05ドル。

週明け5日は、新型コロナに感染したトランプ大統領の病状回復を好転して、大幅に反発した。11月限終値は前週末比2.17ドル高の39.22ドル。

6日は、ノルウェーの石油労働者のストライキで一部の油ガス田が操業停止していること、また、大型ハリケーン「デルタ」が米国メキシコ湾岸に接近していることで、供給不足への懸念から続伸し、節目の40ドル台を回復した。11月限の終値は前日比1.45ドル高の40.67ドル。

7日は、米国エネルギー情報局(EIA)週報で原油在庫が前週比50万バレル増との報告、また、トランプ大統領が追加経済対策の協議断念で、反落した。11月限の終値は前日比0.72ドル安の39.95ドル。

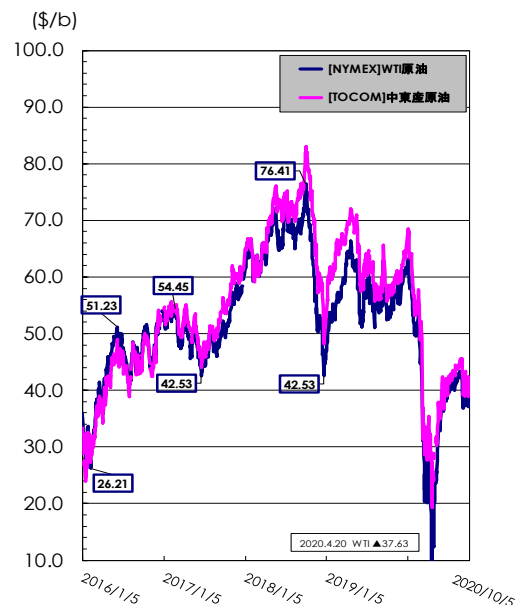
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(11月渡し)は9月17日~30日の間40.20~43.20ドルの範囲で推移した。10月1日42.50ドル、2日38.70ドル、5日39.10ドル、6日40.80ドル、7日41.40ドルと推移した。

為替は9月17日~30日の間104.84~105.80円の範囲で推移した。10月1日105.55円、2日105.56円、5日105.59円、6日105.66円、7日105.68円で推移した。

財務省が10月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、9月中旬の原油輸入平均CIF価格は、31,006円/klで、前旬比507円高、ドル建て46.51ドルで前旬比0.77ドル高、為替レートは1ドル/106.00円。

そのような中で、10月5日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油も同0.1円の値下がり、灯油は横ばい(18%ベース)だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は3週ぶりに値下がりが止まった。この週(10月第1週)の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比0.5円の値下げとなった。

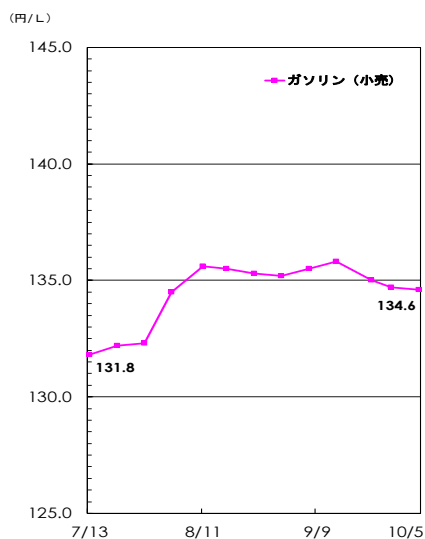
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/27 ~ 10/3	2,582 ▼ -1.68	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	65.9 ▼ -4.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/3	13,377 ▲ 905	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/5	39.89 ▼ -1.79	▼ -16.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/5	39.22 ▼ -1.38	▼ -13.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月中旬	46.51 ▲ 0.77	▼ -17.79
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	31,006 ▲ 507	▼ -12,124
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.00 ▲ 0.01	▲ 0.64
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/5	106.59 ▼ -0.22	▲ 1.15



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/27 ~ 10/3	842 ▼ -51	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	800 ▼ -114	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -16	▼ -	
	在庫	10/3	1,834 ▲ 42	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/29 ~ 10/5	43.0 ▼ -0.2	▼ -14.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/29 ~ 10/5	38.9 ➡ 0.0	▼ -14.3
		(TOCOM/中部)	10/5	40.0 ▼ -1.4	▼ -14.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/5	134.6 ▼ -0.1	▼ -13.5	

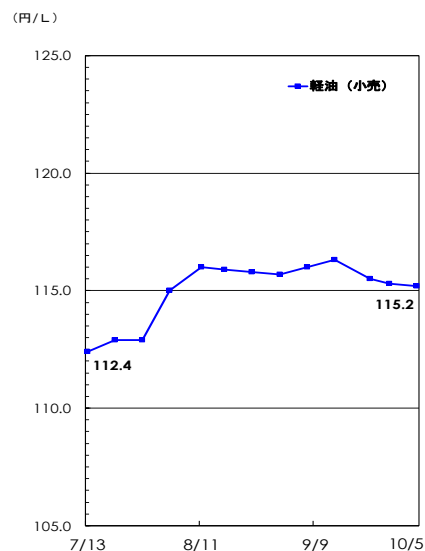
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

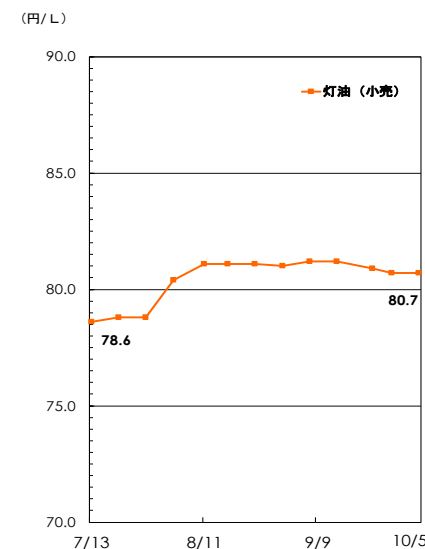
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/27 ~ 10/3	701 ▲ 51	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	637 ▲ 33	▲ -	
	輸出	"	48 ▼ -79	▼ -	
	在庫	10/3	1,501 ▲ 16	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/29 ~ 10/5	45.7 ▲ 0.4	▼ -15.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/29 ~ 10/5	46.9 ➡ 0.0	▼ -15.5
		(TOCOM/中部)	10/5	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/5	115.2 ▼ -0.1	▼ -13.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/27 ~ 10/3	231 ▼ -21	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	82 ▼ -99	▼ -	
	輸出	"	26 ▲ 26	▼ -	
	在庫	10/3	2,971 ▲ 123	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/29 ~ 10/5	45.5 ➡ 0.0	▼ -15.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/29 ~ 10/5	42.0 ▼ -0.3	▼ -14.8
		(TOCOM/中部)	10/5	42.0 ▼ -1.5	▼ -16.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/5	80.7 ➡ 0.0	▼ -11.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

10月7日のNYMEXのWTI先物原油は、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で2日時点の原油在庫が前週比50万バレル増と市場予想(30万バレル増)とわずかに上回ったこと、トランプ大統領が追加経済対策の民主党との協議を断念したことで、反落した。ただ、ハリケーン「デルタ」のメキシコ湾岸への接近、ノルウェーの石油労働者のストライキによる供給不安もあり、下値は重かった。11月限の終値は前日比0.72ドル安の39.95ドル、12月限の終値は同0.70ドル安の40.23ドル。

EIAによると、10月5日時点のガソリンの小売価格は、前

週比0.3セント値上がりの1ガロン2.172ドル(61.1円/㍓)、ディーゼルは同0.7セント値下がりの2.387ドル(67.0円/㍓)となった。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは5週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年9月27日～10月3日に休止したトッパー能力は67.8万バレル/日で、前週に対して15.2万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は258.2万klと、前週に比べ16.8万kl減少。前年に対しては68.8万klの減少。トッパー稼働率は65.9%と前週に対して4.3ポイントの減少、前年に対しては17.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、灯油で減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/5.7%減、ジェット/25.7%減、灯油/8.5%減、軽油/7.8%増、A重油/13.1%増、C重油/3.0%増。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は4.8万kl(前週比7.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、ジェット、灯油、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比では灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は80.0万kl(対前週12.5%減)と2週振りで減少した。ジェット6.5万kl(対前週1.6%減)、灯油8.2万kl(対前週54.7%減)、軽油63.7万kl(対前週5.5%増)、A重油17.9万kl(対前週4.0%減)、C重油18.1万kl(対前週15.9%増)。

(単位:千KL)

	今週 (9/27 ~ 10/3)	前週 (9/20 ~ 9/26)	前週比
ガソリン	800	914	▼ -114 (-12%)
ジェット燃料	65	66	▼ -1 (-2%)
灯油	82	181	▼ -99 (-55%)
軽油	637	604	▲ 33 (5%)
A重油	179	187	▼ -8 (-4%)
C重油	181	157	▲ 24 (15%)
合計	1,944	2,109	▼ -165 (-8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月3日時点の在庫は、ジェット、C重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは183.4万kl、前週差4.2万kl増。前年に対しては24.2万kl多い。

灯油は297.1万kl、前週差12.3万kl増。前年に対しては42.8万kl多い。

軽油は150.1万kl、前週差1.6万kl増。前年に対しては7.5万kl多い。

A重油は72.7万kl、前週差1.8万kl増。前年に対しては4.0万kl多い。

C重油は180.2万kl、前週差4.8万kl減。前年に対しては7.4万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (10/3)	前週 (9/26)	前週比
ガソリン	1,834	1,792	▲ 42 (2%)
ジェット燃料	824	846	▼ -22 (-3%)
灯油	2,971	2,848	▲ 123 (4%)
軽油	1,501	1,485	▲ 16 (1%)
A重油	727	709	▲ 18 (3%)
C重油	1,802	1,850	▼ -48 (-3%)
合計	9,659	9,530	▲ 129 (1.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月29日～10月5日の原油価格は前週比で値下がりし、為替レートはわずかに円安で、円建ての原油コストは値下がりしたと見られる。

次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社、0.5円の値下がりとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月29日～10月5日の製品スポット市況は、9月22日～28日平均と比べ、海上の灯油・陸上の軽油の値上がり、先物のガソリン・陸上の灯油・先物の軽油の横ばいを除き、他の取引で値下がりした。

直近(9/29～10/5)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(9/22～9/28)比で、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油は横ばい、軽油は0.4円の値上がりだった。直近(9/29～10/5)において、ガソリンは96～97円台でわずかに値上がり後値下がり、灯油も45円台でわずかに値上がり後値下がり、軽油は45～46円台でわずかに値上がり後値下がりし推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(9/29～10/5)に、前週比で、ガソリンは0.7円の値下がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間(9/22～9/28)に、ガソリンは98円台で値下がり、灯油は42～43円台で出入りし値下がり、軽油は46～47円台で出入り後わずかに値下がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.3円の値下がり、軽油は横ばいだった。先物価格は、同期間(9/29～10/5)に、ガソリン92～93円台で出入り後値下がり、灯油40～43円台で出入り後値下がり、軽油46～47円台で出入り後値下がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (9/29～10/5)	前週 (9/22～9/28)	前週比
	レギュラー	43.0	43.2
灯油	45.5	45.5	→ 0.0
軽油	45.7	45.3	▲ 0.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (9/29～10/5)	前週 (9/22～9/28)	前週比
	レギュラー	38.9	38.9
灯油	42.0	42.3	▼ -0.3
軽油	46.9	46.9	→ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/29～10/5実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.2	→ 0.0	▼ -0.1
灯油	→ 0.0	▼ -0.3	▼ -0.1
軽油	▲ 0.4	→ 0.0	▲ 0.2
A重油	▲ 0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月5日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の134.6円、軽油は同0.1円安の115.2円、灯油は18%ベースで同横ばいの1453円(1%ベースでは80.7円で同横ばい)。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は3週ぶりに値下がり止まった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは11道県、横ばいは10都県、値下がり26府県となった。全国最安値は徳島県の127.0円(前週比0.1円高)、その次に安いのが宮城県の127.6円(同0.8円安)、最高値は長崎県の144.5円(同0.1円高)。最も値上がりしたのは、同0.9円高の北海道

(133.7円)、横ばいは大分県等10都県、最も値下がりしたのは、同0.8円安の宮城県(127.6円)だった。

今週(9月29日～10月5日)は、原油価格は値下がりし、為替レートわずかに円安で、円建ての原油コストは値下がりしたと見られる。次週(10月8日～14日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値下げとなった。次回調査時(10月12日)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/5)	前週 (9/28)	前週比	直近高値
レギュラー	134.6	134.7	▼ -0.1	08/8/4 185.1
灯油	80.7	80.7	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	115.2	115.3	▼ -0.1	08/8/4 167.4

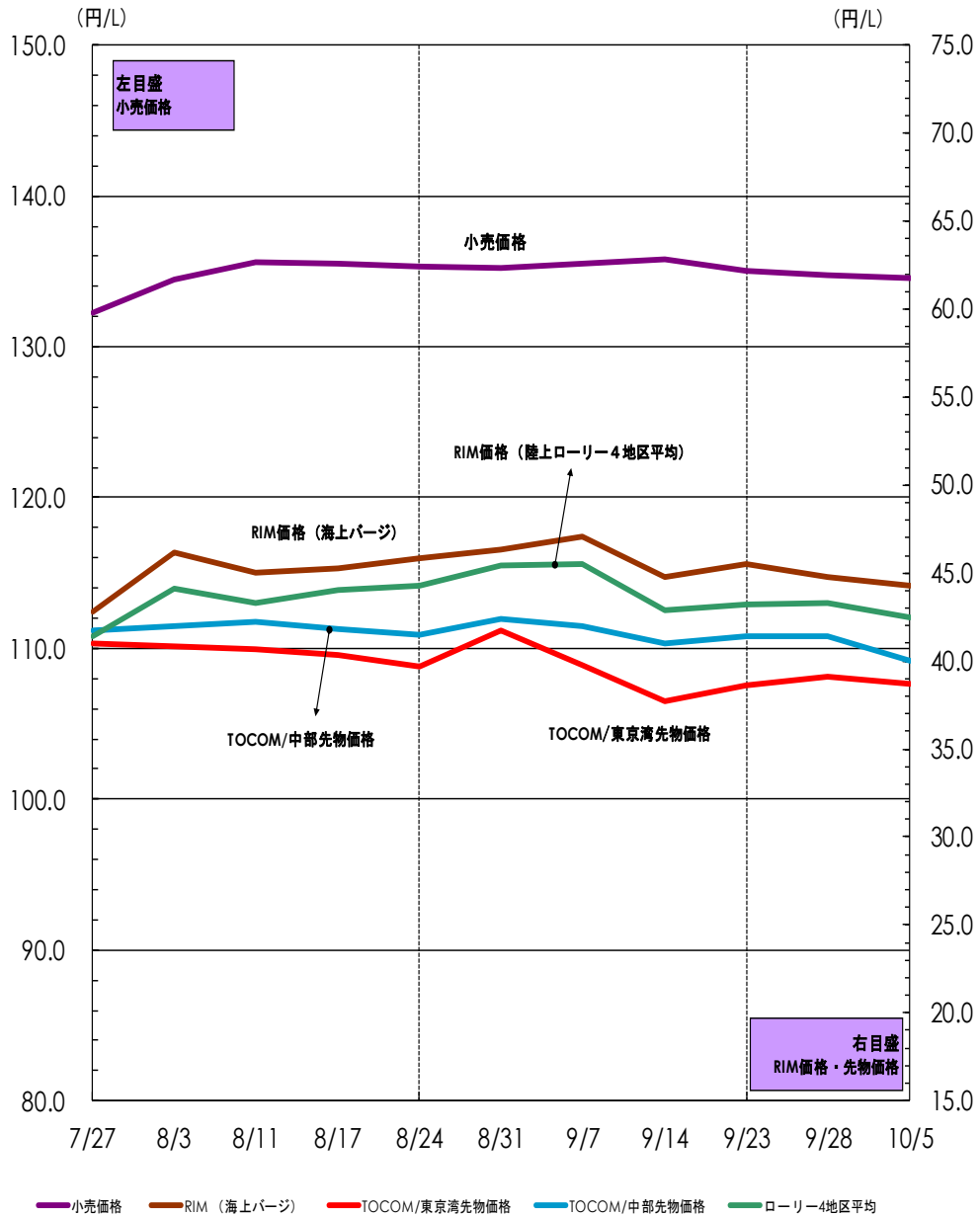
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/7/27 ~ 2020/10/5)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第15号)の公表は、10/16(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。